

●三位一体後第二十一主日 泉のほとり

今月の詩篇「第二十一編」

王は主に依り頼む。

いと高き神の慈しみに支えられ

決して揺らぐことがない。



高ぶる者は低く、低い者は高く

イエスさまは「たとえ」をもって人々を教えられました。特に人々を正しい道に導き、イエスさまと共に神の国に入る目的を示して、あえて「たとえ」で語られたのです。イエスさまの「たとえ」は誰にでもわかる優しい教えであると同時に、間違つた人にはきびしい裁きの教えになります。

今朝のたとえはそのままファリサイ派の人と徴税人に向けられています。ファリサイ派とは「分離する人」との意味で、すでに三百年にもわたって神さまとの約束の書、律法（トーラー）に忠実に生きること自慢する選ばれた人でした。一方徴税人はユダヤの王様に、そしてイエスさまの時代には征服者であるローマ帝国のために人々から高い税金を取り立てて、民衆からさげすまれていた人でした。有名なザアカイはその徴税人の頭であつたと書かれています。

ところがその二人が礼拝の為に神殿に向かう時、こう祈つたと話されました。ファリサイ派の人は「神さま、わたしはほかの人たちのように、奪い取る者、不正な者、姦通を犯す者でなく、またこの徴税人のような者でもないことを感謝します。わたしは週に二度断食し、全収入の十分の一を献げています。」もう一人の徴税人は遠くに立つて、うつむきながら祈をたいたいて「神さま、罪人のわたしを憐れんで下さい。」とお願ひしました。イエスさまは人々に向かつて、「言つておくれ、義とされて家に帰つたのは、徴税人であつて、あのファリサイ派の人ではない。」と話されました。神様の戒めを守つ

ていたのに、ファリサイ派の人は「自分は正しい人間だ」とうぬぼれていて、他人を見下していたのです。でももう一人の徴税人は罪を犯したことを悔いて、「わたしを憐れんで下さい」とへりくだって神さまに許しを乞うたのです。

今から百五十年前、重い皮膚病にかかったハワイ・モロカイ島の聖者と呼ばれたダミアン神父がいました。今はハンセン病と呼ばれていますが、昔はらい病と言われ多くの人々から恐れられていた病気です。ダミアンは二十二歳の時、兄に代わって宣教師としてハワイに渡りますが、病人たちは彼のいうことを聞き入れませんでした。ところがダミアンもまた同じ病気にかかった時、病人達は自分に尽くしてくれた神父に心を開いて、その教えにしたがったのです。ダミアン神父が亡くなったとき、ベルギー国王レオポルト三世は国葬をもって彼に敬意を表したと言われています。ダミアン神父は生涯イエスさまの教えを実行しました。そして今は聖人に列聖されています。

イエスさまはへりくだる者を高められ、他人を見下しうぬぼれる人間を裁かれます。傲慢な人、わがままな子供は必ず神さまが厳しい仕打ちを下されるのです。その時はいつか分かりませんが、わたしたちは常に神さまの正しきを見上げ、またへりくだった思いをもって神さまの教えを実行しなければなりません。困っている方々には正しい心で、勇気をもって声をかけてあげる事が大切なのです。

(ルカ一八・八〜一四)

祈り

新しい月、その最初の礼拝の安息をあなたから与えられたわたし共であります。心のうちに案じておりました、健康を損ねている兄弟姉妹たちが、痛みに耐えてここに姿を現し得ているのを見て、わたし共は喜びに溢れます。闘いの中にある者が、それでもここに姿を見せるとき、わたし共の心は祈りと促されます。

時の移り変わりのまことに早いことを改めて思います。過ぎ去った日々、過ぎ去った月はもはや帰ってまいりません。それだけわたし共の地上の日が消えていったことを改めて御前に思うものであります。しかも、痛みを伴ってであります。悔いることなく振り返ることのできる充実した日々ではなく、あなたの御心に添って生きた日々ではなかったからであります。いたずらなつぶやきによって浪費した時間、愛の言葉と行いによって清たしたのではなくて、憎しみや蔑みの心で満たした日々が多かったことを御前に思い起こします。今そのことをあなたの御前に深く懺悔すると共に、しかし、これらの記録がみもとに残るのではなくて、これを覆う主イエス・キリストの罪の赦しの記録がわたし共の定めとなり得ますように祈り願います。

主の聖餐にあずかります。御言葉に

導かれ、御言葉に支えられてあります。ここに、何にも勝るあなたの愛の証しがあり、わたし共がとこしえの命を刻んで生きることができるとの証しがあります。あなたが備えてくださいました食卓に相應しい思いを、真実の感謝と、それに備える悔い改めをなすことができましように。食卓の交わりの中にあるとき、いつもここにいました友が今病床にあり、あるいは厳しい人生の闘いの中にあり、あるいは信仰の心を失っていることを思い起こすものであります。それぞれに相應しい働きと助けと慰めがありますように。

この国の社会の歩みを思います。世界の歩みを思います。御心に添うこと少なく、争いに流ち、殺し合いが続き、お互いに信じ合うことができず、真実の平和をもたらすことのできない世界を御心のうちに留めてください。あなたを信じる信じないを問わず、平和を作り出すために役立つ者たちをあなたが十分に用いてくださいますように。わたし共もその器として用いられることをお願いいたします。わたし共一人ひとりに平和がしっかりと植え付けられ、わたし共の家庭にそれが広がり、隣人の中に広がり、あなたの御栄えを現すものになりますように。この礼拝をもつて力づけてください。恐れが消えますように。不安がなくなりましように。痛みが癒されますように。

主イエス・キリストの御名によって、感謝し、祈り願います。アーメン

(加藤常昭「み前にそそぐ祈り」より)

今日のお知らせ

○第一礼拝後、教会学校と並行してロビーでのコーヒーマービスと、福音二階リズム室では、礼拝で受けた恵みを分かち合う「ぶどうの会」が開かれます。どうぞご参加ください。

○第二礼拝後、ホールで、讚美と報告の会をします。お昼はお弁当です。

○午後一時半から、ハイデルベルク信仰問答を学ぶ会をします。今回は問五〇〜五二です。

○紫園香音楽伝道師は、本日、福島の笹谷教会で、復興支援チャペルコンサートの奉仕をします。どうぞお祈りください。

○次週一二日の第一礼拝は成長感謝礼拝です。子どもたちの成長を感謝して礼拝をします。

○一〇日(金)午後三時から一五日(水)午後三時まで、から大崎の〇(オー)美術館で幼児画展が行われます。附属幼稚園の絵も出品されます。

○一〇日(金)の夕方、この地域のフェスティバルのひとつとして、品川女子学院ブラスバンド部の演奏会が礼拝堂で行われます。

○一日(土)正午から、湘南基督教墓苑にて、墓苑礼拝を行います。難波三津子姉の納棺をします。

フランクフルトだより

渡独してからの恵み 2

品川教会礼拝での握手も然りです。日常の些細な出来事ですが、私の気持ちに変化が起きました。自信がなくてもドイツ語を話そう。もちろん気持ちも折れそうになることもあります。ドイツに住んでドイツ語を話せない私が至らないのです。今の私の目標は、近所のドイツ人ご夫妻とドイツ語でコミュニケーションをとれるようになることです。娘もドイツ語で挨拶することを楽しいと思うようになり、未たるヤーパンターク（日本の日）というイベントで日本の歌を披露する時には、ドイツの人たちにたくさん来てもらいたい！という気持ちが芽生えています。

ちなみに、娘の結膜炎ですが良くなったものの完治しないので再診をお願いするため電話をしました。ところが先生がベルリンへ行き来速火曜まで不在、とのこと。ここまで理解できたのに、予想外のことになった疑問がでて（治療から2週間経っているが再診までさらに同じ薬を使い続けているのか）その後、続く私のドイツ語が出てきませんでした。



（フランクフルト郊外 バードゾーデン9月）

すると、英語ができる方を探して代わってくださりドイツ語会話はここで終了。残念な結果でしたが、電話で話したための良い勉強になりました。

ドイツにいても、日本にいたとしても、どこにいてもいろいろな思いもよらないことが起こります。そこに示されていること、神さまは私に気づきを与えてくださる、その恵みに感謝して過ごしていきたいと思えます。

（山城 芳子 記）

聖書の会

11月8日（水）

○朝の聖書の会 10時

世界との中の万物とを、使徒17章22〜34節

黄允湜 副牧師

○晩書の夕べ 19時

「我らの主イエス」

ルカ20章41〜44節

古村和雄 牧師

ミニコンサート

11月9日（木）12時30分開演

「楽興の時」OP16

ピアノ演奏 鷺谷 幸

次週礼拝

●第1礼拝（午前9時30分）

讃美歌 小さいこともの 461番

説教 「子どもに見なろう」

聖書 ルカ18章15節〜17節

説教者 黄允湜 副牧師

●第2礼拝（午前11時10分）

讃美歌 27番 380番

詩編 第21篇

説教 「弱さを誇る」

聖書 II コリント11章16〜23節

説教者 古村和雄 牧師



第一礼拝 (午前9時30分)

讃美歌 小さいこどもの

461番

説教 「人生を変える出会い」

聖書 ルカ19章1～10節 (新約P146)

司式者 森 洋之 兄

説教者・聖餐司式 吉村和雄 牧師

前奏曲 「対話」 C.N.ルンガー

- 小さいこどものサムエルは
1 小さいこどものサムエルは
神さまの呼ぶ声、聞きました
「サムエルよ、サムエルよ」
2 小さい声で今日もまた、
神さまの呼ぶ声、聞こえます
ぼくの名前も、わたしのもの
「しもべは、聞きます 主よ、お話をください」

- オルガンによる讃美
「イエス君はいとうるわし」 L.スミス

- 讃美歌 461番 (1,2,4)
1. 主われを愛す 主は強ければ
われ弱くとも 恐れはあらじ
※ わが主イエス わが主イエス
わが主イエス われをあいす
2. わが罪のため さかえをすてて
天よりくだり 十字架につけり
(※ おりかえし)
3. みくにの門を ひらきてわれを
招きたまえり いさみてのぼらん
(※ おりかえし)
4. わが君イエスよ われをきよめて
よきはたらきを なさしめたまえ
(※ おりかえし) アーメン

聖餐曲 「メヌエット」 A.D.ボグナー

後奏曲 「スケルツォ」 C.M.ゲイター

* 礼拝には、聖書、讃美歌、礼拝のしおりを毎週お持ちください。

第二礼拝 (午前11時10分)

讃美歌 9番 324番

詩篇 第21編 (旧約P851)

説教 「あなたはわたしを愛しているか」

聖書 ヨハネ21章15～19節 (新約P211)

司式者 森 洋之 兄・聖餐司式 吉村和雄 牧師

説教者 菊池 美穂子 姉

前奏曲 「おお神 真なる神よ」 J.S.バッハ

- 讃美歌 9番

- オルガンによる讃美
「イエス君はいとうるわし」 L.スミス

- 聖歌隊による讃美
「主のまなざし」 C.H.ブリス
方うしない暗い影におおわれる時
主を見上げる 主はわが全て 変わらぬ友
小さいすずめにさえ 目を留められる
喜び歌おう 主のまなざし
私の上にも いつもあるから
主の御言葉に 養われて
我らの心 平安満ちる
主の導きに 恐れ消え去る
小さいすずめにさえ 目を留められる
喜び歌おう 主のまなざし
私の上にも いつもあるから
喜び歌おう 主のまなざし
私の上にも いつもあるから

- 讃美歌 324番

聖餐曲 「アレグレット」 B.メンデルソーン

後奏曲 「スケルツォ」 C.M.ゲイター